じんもんこん2022概要論文フォーマット

人文太郎 1)　情報花子 2)

1) 情報処理学会　2)情報処理大学

キーワード：人文科学，コンピュータ，概要論文，フォーマット

希望発表形式：口頭発表／インタラクティブ発表／どちらでもよい（希望発表形式以外を削除）

学生奨励賞審査希望：〇／×（学生が第一著者の場合は一方を選択、それ以外は本行を削除）

１．まえがき

人文科学とコンピュータシンポジウム（愛称：じんもんこん）は，情報処理学会・人文科学とコンピュータ研究会（CH研究会）が主催するシンポジウムです．この文書は本シンポジウムへの投稿規程であるとともに，これ自体が投稿に必要な概要論文の原稿見本となることを意図したものです．

２．投稿の概要

じんもんこんは情報処理学会およびCH研究会の会員・非会員に関わらず，どなたでも投稿・発表できます[[[1]](#footnote-1)]．

じんもんこんでは，最初にA4用紙2ページの概要論文を提出していただき，各分野の複数人の専門家による査読が行われます．概要論文が採択されると，シンポジウム当日に配布される論文集のための論文原稿（カメラレディ論文・A4用紙8ページまたは6ページ・PDF）を提出していただきます．カメラレディ論文の作成要領等は，論文採択時にお知らせします．

３．発表の形式

じんもんこん2022では，口頭発表，インタラクティブ発表の2種類の形式を計画しています．

口頭発表：　質疑を含む1件あたりの発表時間は30分程度を予定しています．

インタラクティブ発表：　事前に5分以内のポスターないしデモの説明動画を用意していただき，それを参加者に見てもらえるようにします．当日は，1分間のライトニングトークと，インタラクティブ発表のコアタイム（2時間程度）で，発表を行います．この形式では，参加者との議論の時間を比較的長く確保することができます．

いずれの発表形式も論文としての扱いは同等であり，概要論文の提出からカメラレディ論文の作成までの流れや採否の基準は同じです．希望する発表形式は概要論文の提出時に選択してください．ただし，査読者の意見に基づいて，希望とは異なる発表形式で論文が採択される場合もあります．また原則として筆頭著者および発表者となれるのは，企画セッションを除いて著者一人につき1発表とします．共著者には特に制限はありません．

４．概要論文作成上の注意

概要論文は，この原稿見本を参考に，下記要領に従って作成してください．要領に従っていない概要論文は内容の如何にかかわらず採択されない場合があります．

ページ数：　2ページ以内．

言語：　日本語または英語．

著者名：　情報処理学会論文誌の方針[1]にあわせ，2015年度の査読よりシングルブラインド制となりました．著者，所属を冒頭に入れてください．

キーワード：　査読者を選定する材料となります．論文の内容を適切に表すキーワードを3語以上記入してください．

希望発表形式：　口頭，インタラクティブ，どちらでもよい，の中から選択してください．

図表：　概要論文の中に埋め込んでください．カラー図版の利用も可能です（査読者には電子ファイルが送られます）．

句読点：　論文内で統一してください．「． ，」の使用を推奨します．

参考文献リスト：　論文誌ジャーナル（IPSJ Journal）原稿執筆案内[2]に準じてください．

ファイル形式：　PDFのみとしますのでご注意下さい．ファイルサイズが2メガバイトを超えないようにしてください．

なお，採択後カメラレディ論文を作成する際に，著者の追加や削除，順序の変更は一切認めません（異動にともなう所属の変更等を除く）．また，論文タイトルについても同様です（査読結果の中で指示があった場合を除く）．必ず概要論文と同一としてください．理由なく同一でない論文を提出された場合，採択決定通知後でも不採択として扱うことがあります．

５．概要論文の査読

概要論文の査読は，主に(1)適合性，(2)信頼性，(3)新規性，(4)有用性の4つの観点から行われます．

(1)適合性は，論文がシンポジウムの趣旨，または，CH研究会の趣旨[3]に沿うものであるかどうかを評価します．人文科学あるいは情報科学のいずれかに極端に偏った内容は研究内容の優劣にかかわらず不採択となる場合があります．

(2)信頼性は，研究手法や結果の解釈，引用などについて，不適切な内容やあいまいな記述がないかを評価します．

(3)新規性は，新たな知見やアイディアの提示がなされているかどうかを評価します．本シンポジウムでは境界領域を扱うことから，既知の手法の応用であっても，応用先の分野の進展に新たに寄与するものであれば，新規性の評価の対象となります．

二重投稿については，論文誌ジャーナル（IPSJ Journal）の基準[4]を適用します．

(4)有用性は，人文科学あるいは情報科学の進展に寄与するかどうかを評価します．データベースやソフトウェア等については，公開され利用可能な状態となっているかも一つの目安となります．

この他に，発表形式（対話的な議論の時間を長く取りやすいインタラクティブ発表が適切か，一定時間でまとめる口頭発表が適切か）についても査読者から意見が寄せられます．これらの査読結果を踏まえ，プログラム委員会が最終的な採否と発表形式を判断します．

６．概要論文の投稿

2022年度は，概要論文の提出にEasyChairを利用します．EasyChairのアカウントをすでにお持ちの方は，下記のURLからEasyChair for jinmoncom2022にログインし，アカウントをお持ちでない方は，新規にアカウントを取得してください．

・じんもんこん2022 EasyChairログインURL

https://easychair.org/conferences/?conf=jinmoncom2022

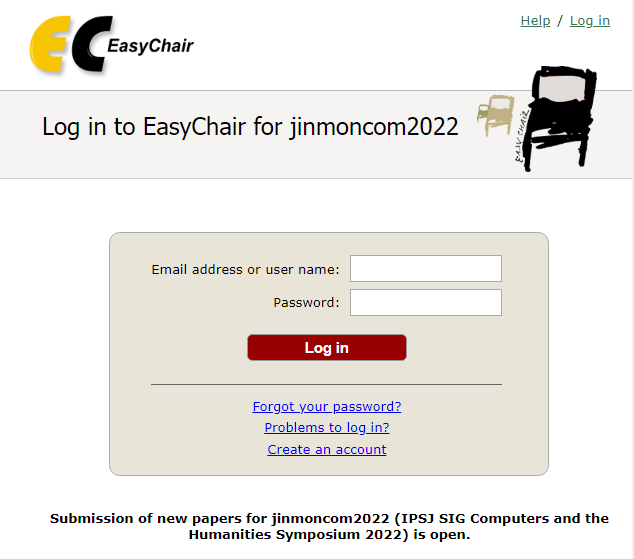


図1　EasyChairログイン画面

・じんもんこん2022公式サイトの投稿要領を参照して期日までに提出してください．

・応募締め切りは2022年9月5日（月）です．  
（余裕をもっての投稿にご協力ください）

・概要論文はPDFで提出してください．

・提出時には，EasyChair提出画面にて以下の内容を入力してください．著者情報は全員分入力してください．日本語で入力していただいて結構です．

* 著者情報
* タイトル
* キーワード（3語以上．日本語を入れた場合エラーとなることがあるため，EasyChairでは英語でキーワードを入力してください．）
* 希望発表形式

・投稿後，EasyChairより確認メールが届きます．確認メールが届かない場合はお問い合わせ下さい．※確認メールが届かない場合は，投稿が正常に完了していません．

・お送りいただいた連絡先等の個人情報は，本シンポジウムにかかる連絡のみに使用します．

・論文の採否はEasyChairに登録された全著者に，e-mailにて2022年10月4日（火）までに通知する予定です．

７．その他の注意事項など

（著作権）

採択された論文については，情報処理学会の著作権規程に従って，論文の著作権を情報処理学会へ譲渡する手続きをしていただきます[5]．

（電子図書館への掲載）

採択された論文は，情報処理学会の電子図書館（情報学広場）に掲載されます．なお，電子図書館に掲載されたファイルの著者への配布は行いません．必要な方は，各自でダウンロードしてください（CH研究会の会員は無料です）．また，参加申込者には発行日にはダウンロードできるようにする予定です．

（発表のキャンセル）

発表をキャンセルする場合は，必ずシンポジウム事務局またはプログラム委員会にご連絡ください．また，以下の場合は論文採択後でもキャンセルまたは不採択として扱われる場合があります．

・カメラレディ論文が期日までに届かない場合．

・カメラレディ論文に概要論文とは著しく異なる内容が認められる場合．

・カメラレディ論文の著者名・題名が概要論文と理由無く異なる場合．

８．あとがき

実行委員会およびプログラム委員会は，多くの研究発表により，実りあるシンポジウムとなることを願っています．皆様の投稿・参加・ご協力をお願いいたします．

参考文献

[1] “論文誌ジャーナルおよびJIPの査読のシングルブラインド制への移行について”. https://www.ipsj.or.jp/journal/info/jour\_topics/topi44.html, (参照 2022-07-31)

[2] “論文誌ジャーナル（IPSJ Journal）原稿執筆案内”. https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun\_j\_prms.html, (参照2022-7-31).

[3] “人文科学とコンピュータ研究会”. http://www.jinmoncom.jp/, (参照 2022-07-31)

[4] “論文査読の手引き”. http://www.ipsj.or.jp/journal/manual/papers\_guide.html, (参照 2022-07-31)

[5] “論文の著作権の取り扱い”. https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/, (参照2022-07-31).

1. ）CH研究会の会員には，シンポジウム参加費や電子図書館の利用に関して優遇措置があります． [↑](#footnote-ref-1)